

かわいい まごに 小学一年

もりの すいきん

はじめに

わかばが めばえるように しょうがつこうでの せいかつが はじまった
ね。

くらいニュースばかりなので ゆめのある はなしを かいてほしい とい
うから じいじが すこしずつ かいてあげよう。

こどもの くに

こどもの くにには こつきようが ないのだよ。
こつきようは おとなが つくったものだからね。
でも たくさんの ちいきに わかれているから たくさんの しゅるいの
ことばが あるのだよ。

いまは にほん という ちいきで にほんごで かいているのだよ。
にほんごは とても むずかしいので ほかの ちいきの こどもたちが
いっしょうけんめい しゃべる にほんごを よくきいてあげようね。
おたがいに ことばを おしえあえば すぐに なかよくなれるよ。

バベルの とう

おおむかしに にんげんは てんにも とどくような とうを つくったん
だよ。

ところが かみさまの いかりに ふれて ことばを バラバラにされてし
まったんだ。

いまでも せかいの ことばは ななせん いじょうの しゅるいに わか
れているんだよ。

けんかばかりしていると かみさまの いかりに ふれて しゃべれなくな
ると いけないから きをつけようね。

エスペラントご

おなじ ことばを しゃべるように なったら べんりだとは よいところに きがついたね。

いまから ひゃくさんじゅうねんほど まえに エスペラントご という げんごが つくられたんだよ。

いろいろな げんごを しゃべる ひとたちが にばんめの げんごとして つかえるように つくられたんだよ。

そんなに おおくの ひとが つかっている わけでは なさそうだけどね。 じいじも にじゅうねんほど まえに エスペラントごの にゅうもんしよ を かって べんきょうしてみただけ もう すっかり わすれてしまった。 また べんきょうしてみる ことに したよ。

ゆめ

ゆめのある はなしを かいてほしい ということで はじめたのだが べんきょうの はなしになってしまったので ゆめについて かいてみようね。

ゆめは かなえるために みるものなのだよ。

「あきらめなければ ゆめは かなう」といった ひともあるね。

たしかに かなえるために もくひょうを たてるといいね。

ゆつくりでいいから あきらめずに もくひょうに むかっていけば ゆめは かなうはずだよ。

へいわ

せんそうのない へいわな よのなかになるような しごとが したい という りっぱな ゆめを もっているとは うれしいね。

こどもの くには こつきようがないので なかよくしていれば へい わになれるはずだよ。

そのまま おとなになれば へいわなままなのにね。 こどものくには ぼうりよくを つかわないように きめられるといいね。

おとなの くに

こどもの くにには ちゅうがっこうを そつぎょうするまで すめるのだよ。

そのあと すこしずつ おとなのくにに うつつていくのだよ。

おとなの くにには こつきょうが あるので わたしたちは にほん という くにに すんでいることになるね。

こどもの くにで なかよくなった ほかの ちいきの こどもたちは ほかの くにの おとなたちになつていくんだ。

ざんねんだが おとなたちで せんそうを したりするから こどもたちになかしい おもいを させてしまうね。

ここある おとなたちは ないているのだよ。

すまない すまないと ないているのだよ。

でも なんとかして へいわな せかいにしたい。

それが いいじの ゆめなのだよ。

ふろしき

ふろしきは ものを つつむために つかうのだよ。ビニールや ぬので できているね。

いいじは おおきな ふろしきで せんそうしてくる くにを つつんでしまえないかと かんがえているのだよ。

ぬのではなく せんそうしてくる くにの ことばで できた ふろしきなのだよ。

ふろしきに へいわについて はなしてもらえば せんそうを やめてくれるかもしれないね。

そんな ふろしきを いいじは すこしずつ つくって いきたいのだよ。

らいげつから しょうがく にねんせいだね。

しょうがく いちねんで ならった かんじが つかえるよ。たのしみだね。